
岐阜県立各務原高等学校

学 校 長 居波 裕
学校住所 各務原市蘇原新生町2丁目63番地 電話 058-383-1015

- 1 会議の名称 岐阜県立各務原高等学校評議員会（第2回）
- 2 会議の構成
- | | | |
|-----|-------|------------------------|
| 委 員 | 大野 正博 | 学識経験者（朝日大学法学部教授 法学部長） |
| | 鈴木 英己 | 関係機関等代表（各務原市立中央中学校長） |
| | 棚橋 雄二 | 企業関係者（(株)タイメック 代表取締役） |
| | 永田 洋 | 地域住民代表（自治会長） |
| | 福田 尚己 | 地域住民代表（各務原市役所市長公室 広報課） |
- （委員名は五十音順）
- | | | |
|-------|-------|--------|
| 学 校 側 | 居波 裕 | 校長 |
| | 林 昭男 | 教頭 |
| | 川地 晃正 | 教頭 |
| | 中川 弘之 | 事務長 |
| | 立川 茂 | 教務主任 |
| | 松久 潤 | 生徒指導主事 |
| | 関谷十糸子 | 進路指導主事 |
- 3 会議の目的 ・岐阜県立各務原高等学校評議員会設置要綱に基づき、本校の教育方針と学校課題を説明し、本校の教育への提言を受ける。
- 4 会議の開催 令和2年2月4日（火） 15:00～16:30 校長室
委員5人と学校側7人が出席

5 会議の概要

■令和元年度の事業報告、評価、課題について説明をした後、本校へのご意見、ご提言をいただく。

- 学 校 長
- ・秋に全教室の黒板がホワイトボード化され、プロジェクターが備え付けられた。
 - ・校則の見直しを行った。学校外のことや、LGBTに配慮した記述について検討した。
 - ・ふるさと教育を行った。
 - ・次年度は普通科単独校になる。1年生定員も240名となる。

○各分掌からの方針と重点、具体的な取り組みと課題についての説明

教頭

- ・保護者アンケート結果について
- ・生徒アンケート結果について

教務部

- ・授業評価アンケートについて
- ・授業改善、教科指導力向上について
- ・学習指導の充実について
- ・ICT機器の活用について

生徒指導部

- ・自転車による交通事故、自転車運転マナーについて
- ・校則の改正について

進路指導部

- ・多様な進路への対応について
- ・大学入試改革への対応について

テーマ 教育の成果と課題について

- 意見 1 ・英語科がなくなることで、海外交流事業はどうなるのか。
⇒（校長）海外姉妹校との交流は、普通科単独校になっても本校の特色として続けていく。
- 意見 2 ・授業評価アンケートで、すべての項目が向上していることはよい。先生が評価結果を自分のことと受け止め改善を図った結果と考えられる。
- 意見 3 ・授業評価アンケートの結果について、客観的に生徒の学力が上がっているのか、生徒の自己満足にとどまっているのかを考える必要がある。ソサエティ5.0に対応すべく教育も変わらなければならない。読解力が大切。図書館利用について、貸し出し冊数減が気になる。原因は、単に活字離れなのか他の要因があるのかどのように考えているのか。活字離れをどう戻すのかが課題である。また、予習が大切になる授業改善を求める。
- 意見 4 ・探究学習とはどのような学習か。
⇒（教頭）座学ばかりでなく、探究のプロセス（①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現）を実践する学習のことで、ふるさと教育で行いたい。
- 意見 5 ・探究学習はふるさと教育がポイントとなる。どれだけフィールドに出て、課題に向き合えるのか。そこで学んだことが社会のなかでどう生かされるのかがわかる。
- 意見 6 ・今は、会って話をしなくても、メール等で済んでしまう。しかし直接会わなければ伝わらない情報はたくさんある。ふるさと教育で、学校の勉強以外に目を向けることはよい。異年齢の人の話を聞き、自分の考えを話すことでコミュニティ力がつく。
- 意見 7 ・PTA総会の出席率を上げるためには、保護者のニーズに合った取り組みが必要。例えば進路の話をテーマにしたら出席率は上がるのではないかと。

6 会議のまとめ

- 学校長 ・貴重なご意見、ご提言を受け止め、今後の教育活動に生かしていきたい。今後とも各務原高校の教育に御指導、御提言をいただきたい。